

温 泉 医 学

九州大学名誉教授 高 安 慎 一

(昭和44年7月30日受理)

Medical Hydrology

Shinichi TAKAYASU

Professor Emeritus, Kyushu University

今日皆様にお話のできるということは、非常に光栄に感じますと同時に嬉しいことでもあります。

皆様御承知の通り日本は世界に類のない温泉国でありまして、私は日本が世界一の温泉国である以上、この温泉の研究及びその利用に努力しなければならないと考えさせられまして、外国に行き温泉治療の実況を見たりいろいろ経験いたしました。日本の温泉地としては、俵山温泉とか湯の平温泉は、リウマチ、神経痛あるいは胃腸病に効くと一般に信じられていましたので、私はこれらの温泉地に出掛けて、そこでいろいろな患者に会い、研究もいたしました。

昭和6年九大温泉治療学研究所が出来ました。温泉の方で取扱う患者は、かなり種類が多かったのでいろいろな種類の患者を引受けました。その時分一般人には、リウマチ、神経痛或は胃腸病といったようなものには温泉が効くと知られておりましたものですから、我々はそういう患者について検査や治療を行ないました。その時分外国人がかなり大勢温研に参りました。外国人は温泉地に行けば必ず温泉医の診察を受けて、それから温泉に入る。このようにして温泉を利用するという習慣がついているものですから、別府に来ましてもまづ我々のところにやってきました。

温泉医学は特殊のゲビートだから、特別に経験をもった人がやるべきであって、無暗に勝手にやるわけにはゆかない。温泉医というものがなくてはいけないと思います。

温泉はだんだん調べてみまするといって、なかなか我々の想像以上に複雑で難しいものがありますね。これは実際に我々が温泉を使って感ずるところでありまして、どうしても諸君と共にますます研究を進めて行かなければなりません。どうか今後共お元気で、そして御才能を発揮されたく、ますます御発展の程祈ってやみません。

(演者御病気のため病床で録音して発表した講演の要旨であります。大内記)